



# 北の縄文

HOKKAIDO JOMONCLUB NEWSLETTER

## CONTENTS

- P1 巻頭あいさつ
- P2-5 特集「縄文雪まつり 2024」結果
- P6 トピックス・お知らせ
- P7 道庁からのお知らせ
- P8 会員情報、編集後記

## 巻頭ごあいさつ



北の縄文道民会議  
理事 齊藤 勝

株式会社 北海道銀行 取締役副頭取



北の縄文道民会議は、「より多くの方々に北海道の縄文文化の素晴らしさや魅力を知っていただくとともに、世界遺産登録に向けて機運を盛り上げるなど、道民運動の大きなうねりをつくっていく組織」として結成しました。設立後12 年が経ち、ちょうど一回りしたというところでしょうか。この間、2021 年7 月には世界文化遺産登録が実現し、あらためて会員の皆様のご尽力とご貢献に敬意を表します。

さて、皆様は縄文時代と聞いて、何を連想するでしょうか。1 万年以上も争いもなく続いた文化と言われ、また、「土器」が誕生し、煮炊きや貯蔵が可能になりました。自然にあるものを口にして、栽培化、家畜化したものはほとんどなかったと言われています。食べる分だけを蓄え、取り過ぎることなく「旬」を味わい、「SDGs」に通じた暮らしだったと言えます。まさに、今我々が目指している「人々が安定して暮らし続けられる世界」であり、突き詰めていくと新しい発見や学びも生まれてくることでしょう。

最近では、皆様も北海道の大切な歴史に触れる機会も多いかと思います。2020 年7 月の「ウポポイ（民族共生象徴空間）」の開業もそうですし、ゴールデンカムイの実写映画の公開も北海道文化に触れるきっかけになっているのではないのでしょうか。ゴールデンカムイでは、アイヌの方々の姿や生き方などが描かれています。弊行においても、2020 年7 月より「ウポポイ休暇」と「ウポポイ入場料補助」を制度化し、職員や職員の家族の「アイヌの歴史や文化」への理解促進を図っております。

北海道には、自然や歴史等、他に誇れる素晴らしい文化があります。まずは、北海道に暮らす我々が、その素晴らしさを理解し、その魅力を発信していこうじゃありませんか。

## 【ナチュの森で縄文にであう展】開催中

ママとキッズを中心に人気のスキンケアメーカー「ナチュラルサイエンス」が白老町で展開している「ナチュの森」。旧虎杖中学校校舎や庭園を活用し、企画展として縄文を知り、楽しみ、大好きになれるようなイベントが始まりました。

### 3月15日～9月末までのロングラン

旧校舎の教室4つ分のスペースに、大がかりな縄文ワールドが出現！数々の縄文本を出版している土偶女子の菅田亜紀子さんと、イラストレーターのスソアキコさんの協力を得て制作された展示には、縄文愛が満載。ダンボール紙で製作した大きな竪穴住居に入ってみたり、麻でつくった縄文人の服を着てみたり・・・エゾシカを仕留めるための落とし穴や弓矢の体験もあり、子どもも大人もワクワクする企画が盛りだくさんです。

3月15日（金）にはオープニングセレモニーが開催され、道民会議・荒川代表も出席しました。

### グルメやグッズ、今後はイベントも。

また、白老町やその周辺の遺跡から出土している実際の遺物や、縄文人の暮らしのナゾを考えるパネルなどもたくさん。好奇心がぐんぐんとくすぐられます。

レストランやカフェでは、縄文ピザなどのコラボメニューや、縄文クリエイターさんのグッズも。図書コーナーにも縄文本が並びます。

これから春、夏、秋に向け、屋内外でマルシェやイベントなども開催されるようです。

※当会議も後援しています。

ナチュラルサイエンスは、道民会議会員。



## 「縄文かるた」が完成！ 縄文 DOHNAN プロジェクト

道南の子どもたちから読み句を募集しながら作成した「縄文かるた」。遺跡群の魅力やトリビア、伝えたい縄文 SDGs 等に加え、道南のマチに関するれも。道南の小学校等に450セット寄贈されます。

縄文 DOHNAN プロジェクトの活動の軸は、縄文を子どもたちに伝え郷土を誇りに思っしてほしいという熱い思い。これまでも、紙芝居制作やワークショップなどを展開してきました。※当会議も協賛しました。



## に～よんフェス「vol.3」へGO！

毎年、縄文をテーマに楽しいフェスを展開している「北24条商店街」。3回目を迎えた今年も、縄文グッズ販売やワークショップなどが展開されます。

・2024年4月27日（土）11:00 - 15:00

・札幌サンブラザ1階（入場無料）

※当会議も後援します。前号で3/4開催についてご案内しましたが、延期となっていました。



## 【JOBON編集部からのお知らせ】



当会議とドニワ部コラボで作成してきた「北海道発・初心者向け縄文読本（JOBON）」は、第10号をもって一旦お休みします。縄文を自由に妄想した「女子トーク」など、ご愛読いただきまして、ありがとうございました。

本冊子は、HPからダウンロードできます。また、まとめて印刷しご活用いただける場合は、ご相談ください。





## 「インバウンド向け縄文アクセスマップ」を制作しました！

渡島総合振興局では、垣ノ島遺跡や大船遺跡、国宝「中空土偶」を所蔵する函館市縄文文化交流センターの所在地である南茅部エリアへ、外国人を含む多くの観光客の来訪促進を図るため、函館のゲートウェイである JR 函館駅、新函館北斗駅、函館空港、津軽海峡フェリー、函館クルーズターミナルから南茅部エリアまでのアクセス情報を記した、日英中韓各言語ごとの多言語マップを制作しました。

各ゲートウェイに当該マップのパネルを設置し、また、当局HPにおいて詳細なアクセス情報を提供します。



対応言語：日本語、英語、中国語（簡体字、繁体字）、韓国語

設置場所：JR 函館駅、JR 新函館北斗駅、函館空港、津軽海峡フェリー函館ターミナル、

函館クルーズターミナル（※函館クルーズターミナルは令和6年4月以降設置予定）

ホームページ：[https://www.oshima.pref.hokkaido.lg.jp/hk/kks/jomon\\_hakodate\\_accessmap.html](https://www.oshima.pref.hokkaido.lg.jp/hk/kks/jomon_hakodate_accessmap.html)

また、道南縄文文化推進協議会の協力により、当該マップデザインを活用した日英2言語併記のパンフレットも作成しました。令和6年3月下旬以降に、函館市内及び近郊の宿泊施設にて順次配架を予定しております。



## 「青函圏フォーラム×JOMON フォーラム」を開催しました！

青函圏交流・連携推進会議（事務局：青森県・北海道）において、世界遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」の構成資産をはじめとする青函圏域の縄文文化を貴重な文化資源として、個人旅行・教育旅行・インバウンドなどの観光分野で持続的に活用していくための課題や対策を共有し、誘客促進や青函圏域内外での交流促進に繋げていくため、渡島総合振興局との共催で、フォーラムを開催しました。

日時：令和6年3月14日（木）15:00～17:40

場所：プレミアホテル-CABIN PRESIDENT-函館 3階「カメラIA」

（函館市若松町 14-10）

基調講演：①「縄文から考える青函圏域の魅力と未来」

〈講師〉映画監督・道南縄文応援大使 山岡 信貴 氏

②「歴史文化資源の観光活用に向けて」

〈講師〉(株)JTB 総合研究所 執行役員・地域交流共創部長 河野まゆ子氏

パネルディスカッション：

「青函圏域における「JOMON」文化観光資源の持続的活用に向けた展開を考える」



基調講演の様子



詳細はこちらのホームページから！

## つながる縄文LOVE フリーアナウンサー 山口由美さん



通常は、ラジオ番組やナレーション、イベント司会、学校でのアナウンス指導などを務めております。

縄文文化への興味が芽生えたのは 2007 年から 10 年にわたり担当したラジオ番組の取材を通じてでした。北海道各地の縄文遺跡を訪れ、専門家の方々から貴重なお話を聴かせていただく機会に恵まれました。最初のインタビューで「縄文人とは原人なのですか？」という的外れな質問を投げかけたことを今でも恥じていますが、その後の学びと驚きの連続で縄文の世界にどっぷりと浸かるようになりました。

ある日、縄文イベントの司会を務めている際にお声をかけていただき、以来、「北の縄文道民会議」の会員として、会員の皆様と共に貴重な経験と知識を分かち合いながら、縄文の魅力を広く伝える活動に取り組んでいます。自然環境や北海道の地形の変遷、現代に継承される文化の源流、そして何よりも縄文時代に生きた人々の知恵や豊かな心、持続可能な社会などに目を向けることで、私の視野は大きく広がりました。

2月に開催した「縄文雪まつり」では全道各地から集結した縄文愛溢れる皆さんと触れ合い、その気持ちは最高潮に！出会いと連帯感に喜び、感謝いたしました。大賑わいの「わくわくマルシェ」、そして、専門家や地域の学芸員、縄文をテーマに活動されている皆さんが続々と登場した「ぶつつづけ！縄文リレートーク」で

は多角的なアプローチや熱い語りにアッパレ！進行役を務めながらも心が踊りました。

ご来場の方々の変化も鮮明に感じられました。リレートークでは立ち見のお客様も真剣な眼差しで参加されています・・・以前の司会では、少しお堅い専門的な話題では、分かりやすく、時にはジョークも交えながら進行していましたが、今回はそんな必要性を感じませんでした。むしろ専門的な内容に関心の高さを感じ、以前と同じ進行スタイルでは逆に邪魔になるかもしれないという危機感を抱いたほどです。

お客様の年齢層にも大きな変化が！若い世代も大勢来てくれていたのです。難題である縄文クイズの正解者も小学生だったり、また、驚くべきことに、ステージトークを終えた道庁・縄文世界遺産推進室の阿部特別研究員が、ファンであるという小学生数人に囲まれ、質問やサイン攻めにあう光景も見られたのです。中には（阿部先生のイメージも考慮してくれたのか？）「鮭のお煎餅」のプレゼントを持参してくれた子もいたのですよ！先生もホクホク♥ご満悦でした。

縄文文化は脈々と人々を繋いでくれています。こうした貴重な出会いと経験に感謝し、今後もこの輪を皆さんと共に広げ大切に育んでいきたいと思



んと共に広げ大切に育んでいきたいと思



北の縄文道民会議  
Hokkaido Jomon Culture Promotion Council



### 編集後記

麗かな春がやってきました。会員の皆さま、いかにお過ごしでしょうか。  
このたび『北の縄文』31号をお届けしました。北海道銀行副頭取 齊藤勝様からご寄稿いただき、お礼を申し上げます。  
さて、今年元日に発生した震度7の能登半島地震。今も、8千人を超える人々が避難生活を送っており、1日も早い復旧・復興を願うばかりです。この地震で能登町「真脇(まわき)遺跡」(縄文時代前期から晩期の集落跡)の竪穴式住居(再現・縄文小屋)は、無事でした。柱を組むための『だ円形のほぞ穴』が小屋の倒壊を防いだようです。これは経験則を基に長い時間をかけ考え出された成果。関係者は「真脇縄文人の知恵」に驚いています。  
今、道内各地で縄文のイベントが催され、縄文 LOVE が爆発中です。事務局一同、今後も皆さまのご協力をいただきながら、縄文文化の価値や魅力の発信に努めてまいります。

編集・発行：世界文化遺産登録の縄文遺跡群と全北海道の縄文遺跡群の活用を推進する道民会議（北の縄文道民会議）

編集委員 谷 紘道、依田 妙恵

TEL：011-221-1122 FAX：011-221-0117 <http://www.jomon-do.org/> E-mail [ebisutani@chuo-bus.co.jp](mailto:ebisutani@chuo-bus.co.jp)